

マルコの福音書 14:66-72 イエスに付き従う者の失敗

今朝は質問から始めたいと思います。今日お集まりの皆さんの中で、iPhone をお持ちの方は何人いらっしゃいますか？手をあげてください。ありがとうございます。私の思った通りの答えです。iPhone を購入するには大枚を叩かなければならないに関わらず、日本での礼拝の集まりにおいてもかなりの人数の方が iPhone をお持ちです。そして、この傾向は世界的に同じなのです。世界の携帯電話のシェアのうち、23%が iPhone で締められており、サムスン 1 社だけが、アップル社より多く携帯電話を販売しているものの、年間平均販売台数は 2 億 3000 万台とほぼ同じなのです。つまり、アップル社がとてつもなく価値のある企業であり、スティーブ・ジョブズが、これほどアップル社が影響力を持っている理由であることは明らかです。スティーブ・ジョブズは 2011 年に亡くなりましたが、アップル社において彼のレガシーは生き続けているのです。しかし、1997 年にアップル社の経営が上向くまで、彼はアップル社で失敗し続けていたことを、皆さんはご存知でしょうか。彼は会社を立ち上げたものの、アップル III コンピュータやリサのようなかなり悪い製品を世に送りだしていたのです。実際、彼は 1985 年にアップル社を解雇され、NeXT を立ち上げましたが、そこで開発した高価格のコンピューターは売れませんでした。もちろん、それで話が終わったわけではなく、今日皆さんがこれほど iPhone を所有しているという事実こそ、彼の経験した失敗ではなく、アップル社における貢献とレガシーを証明しています。

使徒ペテロも（スティーブ・ジョブズと）同じような人生を歩みました。私たちが学んでいるマルコの福音書は、ペテロによるイエスについての物語でもあるのです。ペテロは、マルコの福音書の中のキリストに付き従う人の最高の例です。使徒の働き 2 章にあるペンテコステの日のペテロの説教を用いて、キリストの復活と昇天の後、神はエルサレム教会を始めました。使徒の働き 2 章 14 節には次のように述べられています。⁴ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。そして、ペテロが集まった群衆に説教した後、使徒の働き 2 章の 37 節を見ると次のように書かれています。³⁷人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。³⁸そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。その後どのようになったかが、41 節に述べられています。⁴¹彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。3000 人、すごいことです。一人の忠実な弟子、イエスによって変えられた一人の元漁師を神が用いた時に成し遂げたことは、信じられないような出来事なのです。しかし、使徒の働きの中で述べられたように、神がペテロを用いて地上の教会を始められるという、信じられないような出来事に至る過程には、ペテロの最大の失敗があります。この失敗を通じて、神はペテロをさらに優れた信者にしました。それがマルコの福音書 14 章 66 節から 72 節に述べられています。

しかし、この聖書箇所を読む前に、ペテロのこれまでの物語を辿ってみましょう。マルコの福音書では、ペテロの物語は、漁師であった彼がイエスに出会い、イエスの弟子として召されるところから始まります。マルコの福音書 1 章 16 節から 17 節では次のように書かれています。¹⁶イエスはガリラヤ湖のほとりを通り、シモンとシモンの兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。¹⁷イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」ペテロは、この世の誰よりも、イエスを間近で観察する機会を与えられ、メシアであり、神ご自身であると主張するイエスという人物への信仰を深めていきました。ペテロ、ヤコブ、ヨハネというイエスに最も近い 3 人の弟子の一人として、ペテロはイエスが誰なのかという証拠を直接、間近にみた人でした。次にペテロの名前が具体的に登場するのは、イエスが死者をよみがえらせた時です。マルコの福音書 5 章では、ある少女の父親がイエスのもとにやってきて、病気の娘を癒してくれるように、懇願します。マルコの福音書 5 章 37 節では、「イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒に行くのをお許しにならなかった。」と述べられています。そのときペテロが見たのは、マルコの福音書 5 章 41 節にある、イエスの言葉です。「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。⁴²すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。マルコの福音書 8 章では、ペテロはイエスがメシア、キリストであると完全に確信していることがわかります。マルコの福音書 8 章 29 節では次のよう

に書かれています。²⁹するとイエスは、彼らにお尋ねになった。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」しかし、ペテロのイエスに対する信仰が成長し、強くなる一方で、イエスが数節後のマルコ8章で強く叱責して、彼を正したように、彼のイエスに対する理解は成熟する必要がありました。イエスは弟子たちに、神の計画では自分が殺され、死からよみがえることが必要であると告げた後、マルコの福音書8章32節から33節には次のようなペテロの行動が記録されています。イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。³³しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」このペテロの無知を示す悲しい出来事の後でさえ、イエスは見当違いをしている献身的な従者であるペテロを、この地上における神としてのご自身の栄光を示す最も驚くべき出来事、すなわち変容に参加させたのです。マルコの福音書9章2節から3節には次のように述べられています。それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、高い山に登られた。すると、彼らの目の前でその御姿が変わった。³その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなし得ないほどの白さであった。さて、ここでもペテロは、自分が見ているものへの刺激に対する興奮のあまり、聞くよりも話すという間違っただけのことをしてしまうのですが、彼がこの地上で神としてのイエスの栄光を個人的に体験したことには変わりはないのです。イエスについてすべてを見、経験し、理解した後、ペテロはイエスに付き従うものとしての最大限の献身を行いました。マルコの福音書10章28節では、ペテロがイエスにこう言い出した。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。」と書かれています。そして、もちろん、マルコの福音書14章29節で、イエスの生涯の最後の日が始まったとき、イエスを自分のメシア、救い主と固く信じていたこの元漁師であるペテロは、「たとえ皆がつかまらずいても、私はつかまれません。」と、そのことを心から信じてイエスに宣言しているのです。しかし、イエスはペテロ以上にこの付き従ってきた者の心のうちを知っておられました。そして、ペテロがどんなに善意と信仰を持っていても、ペテロは自分が決してできないと思っていることをそのままやってしまう、とペテロに警告しました。マルコの福音書14章30節には、イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」と書かれています。

ようやくこれで今朝の聖書箇所に入ることができるのですが、その前に、イエスが逮捕された後、ペテロがどこにいたかを思い出してください。マルコの福音書14章54節にはこのように述べられています。⁵⁴ペテロは、遠くからイエスの後について、大祭司の家の庭の中にまで入って行った。そして、下役たちと一緒に座って、火に当たっていた。これがこの聖書箇所でも描かれたペテロの最後の姿でした。彼は、大祭司の家で行われていたサンヘドリンの前でのイエスの最初の裁判を見ていたのです。これらの背景と設定を踏まえて、マルコの福音書14章の66節から72節を読んでいきましょう。ペテロが下の中庭にいと、大祭司の召使いの女の一人がやって来た。⁶⁷ペテロが火に当たっているのを見かけると、彼をじっと見つめて言った。「あなたも、ナザレ人イエスと一緒にいましたね。」⁶⁸ペテロはそれを否定して、「何を言っているのか分からない。理解できない」と言って、前庭の方に出て行った。すると鶏が鳴いた。⁶⁹召使いの女はペテロを見て、そばに立っていた人たちに再び言い始めた。「この人はあの人たちの仲間です。」⁷⁰すると、ペテロは再び否定した。しばらくすると、そばに立っていた人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの人たちの仲間だ。ガリラヤ人だから。」⁷¹するとペテロは、嘘ならのろわれてもよいと誓い始め、「私は、あなたがたが話しているその人を知らない」と言った。⁷²するとすぐに、鶏がもう一度鳴いた。ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と、イエスが自分に話されたことを思い出した。そして彼は泣き崩れた。ここに、この忠実な使徒ペテロの人生における最大の失敗を見ることができます。彼はイエスを深く愛していました。この事実には疑いの余地はありません。彼はユダのような男ではありませんでした。彼はイエスを故意に売り渡して死なせるようなことは決してしませんでした。ペテロはイエスをメシアとして、キリストとして、救い主として、そしておそらくは神そのものとして信じていました。しかし、ペテロはイエスの弟子であることを否定してしまいました。イエスの弟子であることを認めると、命を落とす危険性があるような状況においては、彼の信仰は十分ではなかったのです。ペテロが弟子であることを否定したこの事実には、私たちが理解すべき2つの重要な側面があります。ひとつは...彼の罪の性質、もうひとつは...彼の罪に対する対応です。

ペテロの罪の本質は何だったのでしょうか。ペテロはユダと同じようにイエスを裏切ったわけではありませんが、彼の失敗が罪深いことには変わりはありません。ユダの罪は、彼が本当の意味でキリストに付き従う者ではなかった点にあります。しかし、ペテロの失敗は、キリストに付き従うことへの拒絶ではなく、キリストに付き従うことへの弱さを示していました。先週のメッセージの中で、イエスが裁判にかけられる中、イエスはお自分がメシアであり神であることを大胆に宣言し、召しに忠実であったことを述べました。このイエスの忠実さと対比させるように、ユダとペテロの召しへの失敗が、意図的に配置されていると私が説明したのを、皆さんは覚えていらっしゃるでしょうか？最初の失敗がユダの失敗であり、二番目の失敗はペテロの失敗でした。イエスが中庭の真上で裁判に直面している間、ペテロはペテロ自身で、中庭で自分自身の霊的な裁判に直面していました。しかし、その結果は対照的なものでした。(ペテロの裁判においては) イエスの弟子であるペテロに対して3つの非難がなされ、そのたびに彼は自分がキリストの弟子であることを否定し、その試練に打ち勝つことができずでした。最初の非難は、非常に個人的なものでした。この召使いの少女は、基本的に彼と一対一で対峙しているようです。もしかしたら誰もその非難に気づいていないかもしれませんが、彼女は今イエスの裁判を行っている人物に仕えている者としてペテロに立ち向かっていたのです。ペテロは2つの異なる言葉を使って、イエスをまったく知らないと言いました。最初の「**分からない**」という単語は、学問的な知識として知らないという意味で使われています。彼はイエスのことを全く知らないと言っているのです。そして2つ目の「**理解できない**」という言葉は、実践的な知識を含み、彼のことを新聞で読んで知っているだけでなく、実際に会って知っているかどうかという意味で使われています。ここで、ペテロは自分がイエスを知っていることを完全に否定しているのです。そして、火のそばにいたからこそ自分がイエスに付き従う者だと指摘されたと考え、もっと離れたところにいるグループの中に紛れ込もう、そうすれば見つかることがないと考えたのでしょうか。しかし、今度は少女が(闇に逃げ去ろうとしたペテロを)見て、「ねえ、この人を見てよ..... **この人はあの人たちの仲間です!**」と、ペテロを指差したのです。その結果、彼女だけでなく、他の人たちもペテロを見つけてしまいました。そして、70節の「否定した(denied)」という単語は、英語では「退場する(go off)」という意味にもなるのです。「私がイエスに付き従っていたって、どういう意味だ、.....私は彼を知らない.....(そのようなことを主張する)お前はどうかしている!」と言っているのです。このように言えば、少女を遠ざけることはできたかもしれません。しかし、今度は、周りに立っていた人たちがペテロを見始め、訛りや風貌から、「待てよ、彼はイエスと同じ地方の出身だ、きっとイエスに付き従っていた者に違いない」と言い始めました。そこで、「**確かに、あなたはあの人たちの仲間だ。ガリラヤ人だから。**」と言い始めました。この発言が、ペテロにとって最後の打撃となり、ペテロが(イエスを知っていることを)否定しつつづけるためには、もっと強い否定、最強の応答が必要だと感じるようになりました。原文では非常に明快であったはずですが、ペテロは、汚い罵る言葉を使い、おそらく神に対しても罵る言葉を使い、イエスを知らないと言っていたに違いありません。ペテロには、イエスを否定せず、真実を語るチャンスが3回も与えられていたのです。救い主として付き従った方を弁護するチャンスが3回も与えられていたのです。彼らが殺そうとしている者が、まさに彼が主張している救い主であり、神の子であることを大胆に宣言するチャンスが3度も与えられていたのです。しかし、ペテロは3度とも失敗しました。(野球に例えるなら)3球3振だったのです。そして、イエスは、彼が失敗を警告しており、ペテロはここで初めてその言葉を思い出したのです。72節には次のように書かれています。**72 するとすぐに、鶏がもう一度鳴いた。ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と、イエスが自分に話されたことを思い出した。**

少しユダに話を戻しましょう。最後の晩餐のとき、イエスがユダを裏切り者として指摘したとき、ユダには悔い改めるチャンスが与えられていました。しかし、ユダには罪の意識はなく、イエスに対してキスや言葉を使って過剰なまでの愛情を示しながら、イエスを大胆に裏切ったのです。それに対して、ペテロは正反対の態度を示します。二度目の鶏の鳴き声を聞いたとき、ペテロは即座に自分の罪に気がつき、悔い改めました。72節の最後の言葉には、**そして彼は泣き崩れた、**と書かれています。ペテロが泣きくずれたのは、自分が失敗したことを知っていたからです。自分が十字架に送られることになるかわかっているながら、メシアであり、神であることを大胆に宣言したイエスのように、ペテロもイエスに忠実であり続けることもできたはずですが、しかし、ペテロはそうしませんでした。だからこそ、ペテロは泣き崩れたのです。彼は自分の罪のために泣きくずれたのです。これは、罪を

犯した時、イエスに忠実であり続けることができなかった時に、イエスの真の信者が示すべき反応なのです。ペテロの行動は、彼の真に悔い改める心を示しています。クリスチャンとして、キリストに従う者として、(ペテロのように) 罪を悔い改めるのではなく、言い訳をしようとしたことが、私たちには何度あったでしょうか。

皆さんの中に、自分の犯した罪を悲しみ、嘆くのではなく、(冗談として) 笑い飛ばそうと考えている人はいないでしょうか。自分の罪について冗談を言ったり、それがあたかもとても楽しい出来事であったかのように話したりする人はいないでしょうか。私がよく目にするのは、泥酔と性的不道徳の罪について冗談として笑い飛ばそうとしている人たちです。これらの二つの領域は聖書が非難している罪であるにもかかわらず、クリスチャンの中には、その分野での失敗を軽んじている人が多いように思えます。しかし、もちろん、今日の聖書箇所でもフォーカスされているペテロの罪と失敗は、イエス・キリストとの関係について正直ではなかった点にあります。私たちは今日も(ペテロと) 同じ問題に直面しているでしょうか？ 私たちは今日も同じ問題に直面しています。ここで事例をいくつか紹介したいと思います。横浜から引っ越すまで YIBC のメンバーだったある男性の職場には神棚があり、彼の同僚たちは毎朝頭を下げて祝福を求めています。しかし、彼は、公に神棚を拝むことを拒否し、クリスチャンであることを同僚たちに宣言しました。そして、また、彼が最終的に管理職に就いた時、彼はその神棚を人目につかない場所に移し、敬意を表したり礼拝したりするには、オフィスの外に行かなければならないようにしました。また、別の男性は、トランスジェンダーの男性を雇用する立場に置かれ、女性として雇用するよう勧められましたが、クリスチャンとしてそれに反対を表明しなければなりません。今紹介した状況は、私たちが大なり小なり、日々の生活の中で直面する可能性のある、非常に現実的なものです。私たちクリスチャンは、このような状況に置かれた時、イエスへの献身を貫き、誰を主として仕えているかを明らかにすることができるでしょうか、それともペテロのようにイエスへの献身を否定するのでしょうか。

今朝のメッセージをペテロの生い立ちから始めたのは、過去や未来にどんなに靈的に偉大なことを成し遂げていたとしても、私たちが誰も失敗や罪を超えることはできないという点を明らかにするためです。イエスがペテロに与え、私たちにも与えている警告は、第一コリントへの手紙10章12節から13節にあります。¹²ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。12節に描かれているように倒れないと思っていたのが、ペテロでした。しかし、13節をちゃんと理解すれば、私たちがペテロのように倒れることはありません。¹³あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。神は必ず私たちの逃げ道を用意してくださいますが、それは必ずしも容易な道ではありません。もし、ペテロがこの場でイエスに従うと大胆に答えていたら、ペテロはおそらくイエスと共に殺されていたでしょう。しかし、私たちがあまりにも多くの場合、イエスと共に立つのではなく、ペテロの立場にいることを知っています。しかし、ペテロに希望があったように、私たちにも希望があるのです。私たちに希望があるのは、ペテロが中庭から見ていたキリストが、ペテロの罪と私たちの罪を自ら背負うために十字架に向かってくださったからなのです。完全に罪のない、聖なる人間である神の子が、世の罪を負い、その罪に対する父なる神の怒りに直面することで、私たちがキリストの義を与えられ、聖なる神に対する罪を赦されているのです。これこそが、ペテロの希望であり、私たちの希望でもあるのです。過去、現在、未来の私たちの罪は、イエス・キリストによって贖われました。しかし、この希望を受け取るには、私たちが自分の罪を認め、悔い改め、ペテロのようにイエス・キリストを私たちの主、救い主として受け入れることが求められるのです。では祈りましょう。

Mark 14:66-72 A follower fails

I have a question for you. How many of you in here today have an iPhone? Let me see your hands. That's what I thought...a pretty significant number of people even in a gathering in Japan, even with a phone that costs a pretty crazy amount of money and yet a lot of us have one. And that would seem to be the case worldwide. 23% of cell phone owners in the world have an iPhone, and only one company Samsung has actually sold more phones than Apple, although they each average almost exactly the same number of 230 million phones sold per year. So, clearly Apple is an incredibly valuable company, and Steve Jobs is the reason for that influence today. Steve Jobs died in 2011, but his legacy at Apple lives on. But did you know that before Jobs essentially salvaged Apple starting in 1997, he was a failure at Apple. He had started the company, but had also overseen some pretty bad products like the Apple III computer and the Lisa. He was actually fired from Apple in 1985, and had another failure with his company NeXT and a computer with a high price that did not sell well. Of course, that was not the end of the story and the presence of all the iPhones here today are a testament to the enduring legacy of his value to Apple and not the failures he had experienced.

The Apostle Peter has a similar life story. Remember that this book of Mark we are studying is really Peter's story of Jesus. Peter is the premiere example of a follower of Christ in the book of Mark. It is Peter's sermon on the day of Pentecost in Acts 2 that God uses to begin the Jerusalem church after Christ's resurrection and ascension. [Acts 2:14](#) tells us, [But Peter, standing with the eleven, lifted up his voice and addressed them:](#) Then after preaching to the gathered crowd, we read in verse [37 of Acts 2](#), [Now when they heard this they were cut to the heart, and said to Peter and the rest of the apostles, "Brothers, what shall we do?"](#) [38](#) And Peter said to them, ["Repent and be baptized every one of you in the name of Jesus Christ for the forgiveness of your sins, and you will receive the gift of the Holy Spirit. And the results of this are verse 41... So those who received his word were baptized, and there were added that day about three thousand souls.](#) Wow! This is incredible what one faithful disciple, one former fisherman who was changed by Jesus was capable of doing as God used him. But before we reach this incredible event in Acts where God uses Peter to begin His church on earth, we have to see his greatest failure that God used to make him an even better follower. That is what we find in Mark 14:66-72.

Before we read that, though, let's retrace Peter's story up until now. That story in Mark begins with **his call to be a disciple of Jesus**, when this fisherman Peter meets a man Jesus who calls him away from his fishing. [Mark 1:16-17](#) tells us that when Jesus was... ["Passing alongside the Sea of Galilee, he saw Simon and Andrew the brother of Simon casting a net into the sea, for they were fishermen. 17 And Jesus said to them, "Follow me, and I will make you become fishers of men."](#) More than any other person on earth, Peter was then given the opportunity to see Jesus in an up close and unique way that should have and eventually did grow his faith in this man Jesus who claimed to be the Messiah and God himself. As one of the three closest disciples of Jesus, Peter, James and John, **Peter saw proof of who Jesus was first hand.** The next time Peter is specifically named in an event is when Jesus raised the dead. In Mark 5, a girl's father comes to Jesus begging him to heal his sick daughter, but we find out before Jesus gets to their house that the girl has died. We see in [Mark 5:37](#) that Jesus... [allowed no one to follow him except Peter and James and John the brother of James.](#) What Peter saw at

that time was in verse 41 of Mark 5, Jesus saying “Little girl, I say to you, arise.” 42 And immediately the girl got up and began walking (for she was twelve years of age), and they were immediately overcome with amazement. By the time we reach Mark 8, Peter is fully convinced that Jesus is the Messiah, the Christ. We read in Mark 8:29, And he [Jesus] asked them, “But who do you say that I am?” Peter answered him, “You are the Christ.” But while his faith is growing and strong, his understanding of Jesus needed to mature as Jesus corrected him with a strong rebuke just a few verses later in Mark 8. After Jesus told the disciples that God’s plan required that he be killed and rise from the dead, we read in Mark 8:32-33, 32 And he said this plainly. And Peter took him aside and began to rebuke him. 33 But turning and seeing his disciples, he rebuked Peter and said, “Get behind me, Satan! For you are not setting your mind on the things of God, but on the things of man.” Even after this sad display of Peter’s ignorance, Jesus lets this sometimes misguided but committed follower be a part of the most incredible display of his glory as God here on this earth – the transfiguration. We read in Mark 9:2-3 And after six days Jesus took with him Peter and James and John, and led them up a high mountain by themselves. And he was transfigured before them, 3 and his clothes became radiant, intensely white, as no one on earth could bleach them. Now, even here Peter does the wrong thing by talking rather than listening in his nervous excitement at what he is seeing, but it doesn’t change that he personally experienced Jesus’s glory as God here on earth. After seeing and experiencing and understanding all that he did about Jesus, he was as dedicated as a follower could be. By his own words he told Jesus this in Mark 10:28 Peter began to say to him, “See, we have left everything and followed you.” And of course as this last day of Jesus’s life began in Mark 14:29, this former fisherman who firmly believed in Jesus as his Messiah, his Savior, proclaimed to Jesus in words that he truly believed he would live up to “Even though they all fall away, I will not.” But Jesus knows the heart of this follower even better than Peter himself does. And he warns Peter that for all of his best intentions and his faith that he will do exactly what he thinks he could never do. Verse 30 of Mark 14 goes on to say, “And Jesus said to him, “Truly, I tell you, this very night, before the rooster crows twice, you will deny me three times.”

This brings us to our passage for today, but before reading the passage remember where Peter is at after Jesus is arrested. Mark 14:54 tells us, And Peter had followed him at a distance, right into the courtyard of the high priest. And he was sitting with the guards and warming himself at the fire. That was the last time we saw Peter. He was watching the first trial of Jesus in front of the Sanhedrin that was taking place in the high priest’s house. With that background and setting in place, let’s read verses 66-72 of Mark 14. 66 And as Peter was below in the courtyard, one of the servant girls of the high priest came, 67 and seeing Peter warming himself, she looked at him and said, “You also were with the Nazarene, Jesus.” 68 But he denied it, saying, “I neither know nor understand what you mean.” And he went out into the gateway and the rooster crowed. 69 And the servant girl saw him and began again to say to the bystanders, “This man is one of them.” 70 But again he denied it. And after a little while the bystanders again said to Peter, “Certainly you are one of them, for you are a Galilean.” 71 But he began to invoke a curse on himself and to swear, “I do not know this man of whom you speak.” 72 And immediately the rooster crowed a second time. And Peter remembered how Jesus had said to him, “Before the rooster crows twice, you will deny me three times.” And he broke down and wept. Here we see the greatest failure of this faithful apostle Peter’s life. He loved Jesus. There is no doubt about it. He was no Judas. He would

never intentionally sell out Jesus to die. He believed in Him as his Messiah, his Christ, his Savior, and maybe even as God himself. But that was not enough to have him not deny being a follower of Jesus, when admitting it might have come with a tremendous cost, perhaps even his own life. There are two key aspects to Peter's denial that are important for us to understand. *One...the nature of his sin* and *Two...the response to his sin*.

What was the nature of his sin here. Peter did not betray Jesus in the same way Judas did, but his failure was still sinful. Judas's sin showed that he was not really a follower of Christ. But Peter's failure showed not a lack of following Christ, but a weakness in following Christ. If you remember, I mentioned in the last sermon that the trial of Jesus and his faithfulness to his calling as he boldly proclaimed that he was both the Messiah and God was intentionally put between two failures at their calling. The first failure was Judas, and the second was Peter. And while Jesus is facing a trial going on right above the courtyard in the house, Peter is facing a spiritual trial of his own in the courtyard, but with a different result. There are three accusations made against him as a follower of Jesus, and with each one, he denies being a follower of Christ, and fails the test. The first accusation is very personal. This servant girl seems to just be confronting him basically one on one. Maybe no one noticed the accusation, but it was her confronting Peter as someone who was devoted to the man who was now conducting the trial of Jesus. Peter uses two different words to say he doesn't know Jesus at all. The first word "know" is like academic knowledge. He doesn't even know of him. And the second word "understand" is a practical knowledge of not just knowing from reading about him in a paper, but actually meeting him in person. So, Peter is denying completely that he knows him. Then he tries to retreat, perhaps thinking that since he was by the fire, that was why he was recognized, so maybe he should try to fade into the group further away. But this time the girl sees him and she is pointing him out to others, "Hey look at that guy...he's one of them!" Now, it's not just her, others are looking at him. And the word "denied" in verse 70 there actually carries the idea that he "went off" on her in English. "What do you mean, I follow him...I don't know him...You're crazy!" That may have pushed the girl away, but those standing around start to look at Peter and realize maybe from an accent or look, "wait he's from the same part of the country as Jesus is...he must be one of his followers." So they say, **Certainly you are one of them, for you are a Galilean**. This is the last straw for Peter and if he is going to keep up the denial it requires his strongest response. The original language here is very clear, Peter is using swear words and possibly even swearing to God with an oath that he does not know Jesus. Three chances to tell the truth and not deny Jesus. Three chances to defend the one who he has followed as his Savior. Three chances to boldly proclaim that this one they want to kill is exactly who he claims to be, the Savior and the Son of God. But three times, Peter fails. Three pitches, three strikes and Peter is out. And remember Jesus has given him a sign that would remind him of Jesus's words warning him of his failure. And so we read these sad words in verse 72, **72 And immediately the rooster crowed a second time. And Peter remembered how Jesus had said to him, "Before the rooster crows twice, you will deny me three times."**

Let me return to Judas for a minute. Judas was given a chance to repent at the last supper, when Jesus was pointing him out as his betrayer. But Judas has no guilt and very lavishly betrays Jesus with an over the top display of affection in his kiss and in his words. Peter is exactly the opposite. When he hears the sign of the rooster crowing the

second time, it immediately brings him to repentance as the response to his sin. The final words we read in this passage are **And he broke down and wept**. He wept because he knew he had failed. He wept because he knew that he was not able to remain faithful while Jesus boldly proclaimed his identity as Messiah and God knowing it would send him to the cross. He wept over his sin. This is the response of a true follower of Jesus to our sin and our failure to remain true to Jesus. It shows a repentant heart. How many times do we as Christians, followers of Christ, try to excuse our sin, rather than repenting of our sin. Do we even laugh at our sin rather than grieve our sin. I have heard people joke about their sin or talk about it like it was so pleasurable you have to wonder if they even have any guilt over it. Two areas that I hear this often in some way are in drunkenness and sexual immorality, both sins the Bible condemns and yet some Christians seem to make light of their failures in those areas. But of course the context of this sin and failure was in not being honest regarding Peter's relationship with Jesus Christ. Are we confronted with those same issues today? We are...let me share a couple of real life examples how we might see this. A man who used to be a member here until he moved away shared with me that in his workplace there was a KAMIDANA, a Shinto household altar at his workplace that each of his coworkers would bow to each morning and ask for blessing. He refused to do that which of course was very public that he did not do it, and eventually when he became the manager, he removed it to a place where it was not public and you had to go somewhere outside of the office area to offer respect or worship to it. Another man was put in a position to hire and was being encouraged to hire a transgendered man presenting as a woman, and had to express disagreement with it as a Christian, not an easy situation. So these situation are very real that we may face in big or small ways. Are we as Christians going to stand by our commitment to Jesus and make it known who we serve as our Lord, or will we do as Peter did here?

I started with Peter's background so that we could see that no matter what spiritual greatness is in your past or your future, none of us is beyond failure and sin. The warning that Jesus tried to give Peter and that he gives us is in [1 Corinthians 10:12-13](#) **Therefore let anyone who thinks that he stands take heed lest he fall**. This was Peter, he did not think he could fall, but it doesn't have to be us if we understand verse 13. [13 No temptation has overtaken you that is not common to man. God is faithful, and he will not let you be tempted beyond your ability, but with the temptation he will also provide the way of escape, that you may be able to endure it](#). There is a way out, but it will not always be easy. Would Peter have lived had he answered with a bold declaration of following Jesus – maybe not. But we know that far too often we find ourselves in the position of Peter rather than standing with Jesus. But there was hope for Peter and there is hope for us. Because the one who Peter watched from the courtyard was heading to a cross to take Peter's sin and our sin on himself. The completely sinless, holy, human, Son of God would bear the sin of the world and face the wrath of God the Father against that sin so that we could be given Christ's righteousness and forgiven for our sins against a holy God. That was Peter's hope and our hope, that our sins, past, present and future are paid for by Jesus Christ. But that is only true if we have recognized and repented of our sin and accepted Jesus Christ as our Lord and Savior as Peter had done. Let's pray.